

## 新宮山彦ぐるーぷ第2047回

### 行仙宿台風被害調査

◇実施日；2019年10月13日（日） 曇り時々晴

◇参加者…志岐敬、梶野照雄 （2名）

大型で猛烈な勢力の台風19号が紀伊半島の南を通過して、関東、甲信越と東北南部に大きな爪痕を残した。

近畿地方では、雨風が強かったが格別の被害は無かったように思える。しかし標高の高い山では平野部と同じとは限らない。台風通過の行仙宿の調査に向かった。



モノレールの準備中

浦向道の橋に向かう

手摺パイプを運んだ

朝6時半に近鉄吉野口駅で志岐さんを拾って登山口に向かう。

台風直後のためか国道の通行量は少ない。9時丁度に登山口に到着。

R425や林道に異常は皆無だった。大雨が降ると水流で深い溝ができる左カーブも、少し速度を落とすだけで問題なく通過できた。モノレールで終点まで上がり、二人で浦向道の橋を見に行く。手ぶらで行くのはばかられたので、手摺用のパイプをそれぞれ一本ずつを持って行った。橋までには枯枝が多数落ちていたが、切断が必要な倒木は無かった。橋に到着しパイプを橋床板の前に置いた。



倒木の除去

行仙宿に到着

橋には枯れた木が2本もたれかかっていた。チェーンソーはモノレール終点に置いてきたので、ノコで橋上の部分だけを切断した。モノレール終点に戻り荷物を持って小屋に向かう。管理棟の東斜面に空の貯水槽が転がって立木に引っ掛かっていた。

小屋に着いて水場に降りる支度をしていると、一人の縦走者（女性）が南下してきた。小屋内で休憩するように勧めて水場に降りた。水場迄にも折れた枝が多数落ちていたが、チェーンソーは使うことなく全て手で排除できた。水場に到着して一安心。落石は全くなく、

きれいな水が滝になって流れ落ちていた。志岐さんは7Lのポリタンクに水を汲んで小屋に運んだ。持ってきたジョレンやバチヅルは無用だったが、小さな熊手は落ち葉や小石を掻き出すのに役立つ。



水場に降りる



落石は殆ど無し



ポリタンクに水汲み



女性縦走者が出発



貯水槽を回収



小屋周りの清掃

小屋に戻って昼食にする。女性縦走者は、我々が水場に降りている間に昼食を済ませ、小屋の掃き掃除をしてくれた。行仙岳までの奥駆道の状況を聞いてみたら、「枝はいっぱい落ちていたが、倒木は無い」とのことだったので、行仙岳までの巡視は中止した。女性縦走者が出発後、管理棟下の貯水槽引き上げにかかる。転がって補給路よりも下に落ちてしまわないように、ロープで確保して補給路に降ろした。降ろしてみれば見かけよりも軽く、一人で管理棟横まで運ぶことができた。



間伐材を運ぶ



本日の参加者



残されている工事機材

熊手やホウキで小屋周りの落ち葉、枯枝を掃除、管理棟の東斜面に残されていた間伐材を管理棟前に引き上げた。一部はチェーンソーで薪材用に小切った。小屋周りの清掃が終わって下山を始める。途中で21番鉄塔に寄り道する。先日の工事機材がまとめて残されていた。覆われていたブルーシートが一部剥がれていたもので、掛け直して抑えに脚立を置いた。

(記：梶野)

## 行動タイム

登山口 09:10→09:18 モノレール終点 09:25→09:41 浦向道橋  
09:48→10:30 行仙宿 10:45→11:05 水場 11:14→11:40 行仙  
宿 14:40→15:10 登山口